

金融市場の8月のイベントリスク

2018年8月6日

りそな銀行 アセットマネジメント部
チーフ・マーケット・ストラテジスト 黒瀬浩一

今年は記録的な酷暑だ。日本には暑い夏を心理的に涼しく過ごす知恵として、肝試しや怪談を楽しむ慣習がある。背筋が凍る思いをして暑い夏を乗り切ろうという世界的にもまれな慣習だ。閑話休題、金融市場でも8月から9月にかけて以下のように背筋が凍る可能性のあるイベントが多く控えている。

(1) 日米 FFR 会合（日本は国際ルール遵守を押し出す反面、米国は防衛費負担や二国間 FTA など自国有利な交渉に持っていかうとする可能性が高い。円高圧力をかける可能性もないわけではない）、(2) 自動車関税（米国商務省が安全保障を理由に関税引上げが適切かどうかを8月中旬に大統領府に報告、最終判断を下すのは大統領府だが、執行までに約8カ月を要するため、この間に工場の直接投資などを条件交渉する可能性が高い）、(3) 対中で160億ドルを対象に追加関税（総額500億ドルのうち既に発効した340億ドルの残り、早ければ7月中旬にも発動される可能性があったものの中国の宥和姿勢もあり未だ発動せず）、(4) 対中で5,000億ドルを対象に関税引き上げ品目発表（7月11日、唐突に2,000億ドルを対象に品目を発表しており、可能性はある）、(5) 対メキシコ NAFTA 再交渉（政権交代が現実となったメキシコの新政権は、選挙後に対米宥和路線へ修正、貿易担当相は妥結の時期を8月頃と表明）(6) 対カナダ NAFTA 再交渉（メキシコを籠絡した後に二国間交渉で妥協を迫る公算）、(7) 中国で北戴河会議（習近平は対米関係悪化の責任を追及される可能性が高い。2015年はこの直後、唐突に人民元を切下げ、その後に要人暗殺を狙った天津での列車爆発事故が発生、金融市場はパニックに陥った）、(8) 米国予備選挙（8月はフロリダ、ミシガン(8/7)、オハイオなど激戦州を含め20州で実施される）

しかし、9月に入ると、夏に地元へ帰省した議員が議会再開に備えワシントンに戻る。恐らく地元では、貿易戦争が実は米国民に対する単なる増税だと判明することで、鉄鋼の町などごく一部の例外を除き、怨嗟の大合唱を聞くことだろう。トランプ大統領のツイート「貿易戦争に勝つのは簡単」、ナバロ通商製造政策局長の発言「(貿易戦争の) 相手国は報復しない」は明らかに読み間違えだった。逆風がトランプ政権の支持率に反映されるのも、時間の問題である可能性が高い。その意味で8月のイベントリスクは、米国がチキンレースから降りるきっかけとなる可能性がある。大事なのはチキンレースから降りる政治ショーの形だ。テレビ業界に長くいたトランプ大統領は、視聴率を取るのと同じ発想で、成果を誇示して勝利宣言をする可能性があるのではないか。古来より時の政権がプロパガンダで負け戦を勝利したと誇示するのは珍しいことではない。ただ少なくとも現時点で米国は一定の成果を得ている。中国の自動車や電化製品の関税引下げ、EU の大豆輸入急増、欧州の防衛費増強、韓国の鉄鋼輸出自主規制、米国や英国やドイツの中国からの直接投資の審査厳格化、航行の自由作戦に英仏が参加、などだ。更に潜在的には、中国や EU のエネルギーや農産物の輸入増加、日本の防衛機増強、日独韓などの自動車工場の新規対米直接投資、中国の知財管理の厳格化、などもありうる。

昨年の朝鮮半島危機は、結果的に戦争の危機が和平のチャンスへと転換した。貿易戦争についても、積年の課題であるグローバル・インバランスの是正という意味では、良い貿易戦争に昇華する可能性を秘めている。

以上

- ・本資料は、お客様への情報提供を目的としたものであり、特定のお取引の勧誘を目的としたものではありません。
- ・本資料は、作成時点において信頼できるとされる各種データ等に基づいて作成されていますが、弊社はその正確性または完全性を保証するものではありません。
- ・また、本資料に記載された情報、意見および予想等は、弊社が本資料を作成した時点の判断を反映しており、今後の金融情勢、社会情勢等の変化により、予告なしに内容が変更されることがありますのであらかじめご了承下さい。
- ・本資料に関わる一切の権利はりそな銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを固くお断りします。